

田中康夫の



「Yurikoファースト」

41

「税金というお代を事前に頂戴するパブリック・サーヴァントの私たちは、県民に奉仕する総合サーヴィス産業の従事者です」。

44歳で信州・長野県知事に就任

「サーヴィス」や「奉仕者」は行政や政治に馴染まないと上から目線な深層心理の現れでした。

初登庁日、各局局への挨拶で僕が差し出した名刺を職員が折り曲げた事件をご記憶でしょう。メディアは拳^{こぶ}つて守旧派幹部の行為として報じ、全国から電話やFAX、手紙、更にはSNSなる符牒^{しるし}が存在しなかった往時にメールも県庁に殺到。即刻配置転換すべしの意見が圧倒的でした。けれども僕は、引き続き企業局長の任を全う^{まっとう}し欲^ほしいと彼に伝えます。

実は彼は、以下の台詞を僕に伝えた上で名刺を折ったのです。

「今日から貴方は知事。我々と一緒に仕事をする同志だ。外部のお客さんじゃない。その証としてVカメラのライトに上気しての突発的行為。が、報道番組もワイドショーも、「…」に当たる「この名刺は折り曲げさせて頂きます」の部分のみをオンエアしました。

した2000年10月26日、部長会議で挨拶すると、年上の幹部職員から異論が続出します。我々がサーヴィス産業の従事者とは何事ぞ、と。税金で禄^{ろく}を食^はむにも拘らず、

4ヶ月後の2001年2月20日、「日本の背骨に位置し、数多^{あまた}の水源地を擁する長野県に於いては出来る限り、コンクリートのダムを造るべきではない」と僕が「脱ダ

ム」宣言で9つの県営ダム計画中止を発表するや、県議会の大多数から猛反発を受けます。すると5月の連休明け、彼は大胆不敵な「提案」を持って、ガラス張り知事室へ入って来ます。企業局は、県営水道や有料道路に加えて公営電気事業の発電所も所掌^{しりょう}していました。

天竜川水系の南アルプスが水源の三峰川^{みねがわ}最上流で国が直轄事業として計画する戸草ダムに、県が水力発電で事業参画する方針を見直したいと切り出します。ダム建設総事業費の3割を県が負担し、竣工後に電力会社に売電する事業計画は、管内の電力事情を鑑みるに到底、採算が見込めない。従って過去14年間負担してきたダム調査費の今年度限りでの打ち切りを国土交通省中部地方整備局に伝えた

い、と。僕は同意します。豈^{あにはか}図らんや国交省も県の動きを受けて戸草ダム計画の見直しを開始。僕が退任後の2008年、不要不急だと事業中止を正式発表。後に国交省幹部から耳打ちされま

す。有り難い切っ掛けでした、と。星霜を経て東京都の小池百合子知事は、「全都庁の職員を肅正したい」と会見。タクシーのラジオ

で聴いた瞬間、ヨシフ・スターリンや金正恩^{キムジョンウン}が好んだ「肅清」と早とちりし、鳥肌が立ちました。

「北風と太陽」のイソップ寓話を繙^{ひもと}く迄もなく、「官VS民」と指摘される官に所属する一人ひとりとして、住宅ローンを抱え子供の教育に悩む民の1人。退任した先輩に累^{かさね}を及ぼす勿^なれと、冷温停止状態に陥っていた、本来は有為な職員に人間の体温を取り戻して貰う事こそ、急がば回れ、伏魔殿と彼女も呼ぶ都庁改革の一步です。

にも拘らず、「情報公開」を力説する上山信一特別顧問を筆頭に「進駐軍」が都庁改革本部で跳梁跋扈。他方、ガバナンス不在を糾弾し、3施設の代替案を提示した「オリンピック・パラリンピック調査チーム」名の文書全97ページの何処にもメンバーの名前が見当たりません。

アスリートの願いは後世に誇れるレジエント^{スタジアム}。負^しのレジエント^{レジェン}を生まないのが都民の願い。二律背反な「アスリート・ファースト」「都民ファースト」は着地点も見えぬまま迷走し、全ては「百合子ファースト」の一人舞台と化したつあるのかも知れません。嗚呼。

★次号2月号の発行日は2月25日(最終金曜日)です。